

中学生にすすめたい！この一冊 ①

読書コンシェルジュが、「すこし後輩」に当たる中学生の皆さんに、心に残る一冊を紹介します。

普通？の中学生・内人と有名財閥の御曹司・創也の二人が、究極のR・RPGを作るため大冒険！二人で協力してピンチを脱する姿に、ハラハラドキドキです。

この二人やその仲間たちと一緒に、大冒険している気分が味わえます。



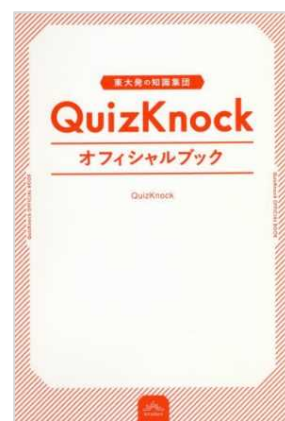
とにかく二人の行動力・発想力がすごい！

中学に入って忙しくなり、思うように遊びに出かける時間がなくなっても、この本を開けば遠くへ冒険できます！

ゲームづくりの中で出会う仲間や未知の敵と、本当に一人一人のキャラが濃くておもしろい！！

『都会 (まち) のトム&ソーヤー』
(はやみねかおる／著 講談社)

クイズ王・伊沢拓司が率いる「QuizKnock」の初・公式本。初級～超上級に分かれていて、クイズに興味がない人でも「これ知ってる！けど何だっけ・・・」と引き込まれていきます。私のお気に入り「みかんの白い部分を何という？」身の回りにあるのに何だか分からずモヤモヤしていることも、この本があればスッキリ解決！



『東大発の知識集団 QuizKnock オフィシャルブック』
(QuizKnock／著 クラークン)



身寄りもなく、生きる希望も術もない主人公・羽鳥チセが、ヒトではない怪物？のような魔法使い・エリアスの弟子兼嫁として買われるところから物語は始まります。

空想しやすい描写で、魔法使いという独特な世界にもスツと入り込めます。現実逃避にオススメ！

「金糸^{へん}篇」のほかに、実はもう一つ「銀糸^{へん}篇」もあり、どちらからでも楽しめますよ。

『魔法使いの嫁 金糸篇』
(ヤマザキコレ／監修 マッグガーデン)

『オーダーメイド殺人クラブ』
(辻村深月／著 集英社)
集英社文庫

まずタイトルのインパクトがすごい！私はこのタイトルを見て、読もうと思いました。内容もまさにタイトルどおりですが、それだけではないのです！

登場人物の多くが中学生なので、中学生特有の感性に共感できることが多いと思います。

読まなきゃ損！な作品なので、タイトルで「怖い・・・」と思わずに、ぜひ読んでみてください！！



中学生にすすめたい！この一冊 ②

読書コンシェルジュが、「すこし後輩」に当たる中学生の皆さんに、心に残る一冊を紹介します。

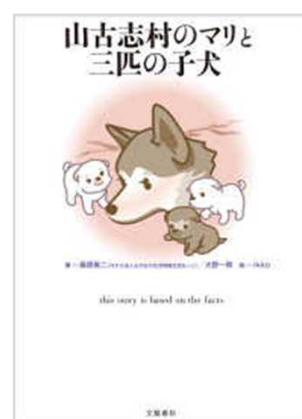


普段はなかなか出会えない謎や事件、友情の深さを楽しみつつ、同じ中学生の主人公たちに感情移入できると思います。
この本に出てくる専門用語は、高校の授業でも出てくるので、勉強にもなります。
中学生ならではの葛藤や友情も楽しめる作品です。

『探偵チームKZ (カッズ) 事件ノート』
(藤本ひとみ/原作、住滝良/文 講談社) 青い鳥文庫

『山古志村のマリと三匹の子犬』
(桑原眞二、大野一興/著 文藝春秋)

2004年10月23日、新潟県中越地震が起きました。この本は、地震の中で子犬を守り抜いた母犬・マリの物語です。
この本から私は、母親の姿を、そして地震の時に何ができるのかを考えることができました。
自分の目標を見つけたい人に読んでほしい一冊です。



学部も学年もバラバラの大学生10人が集まる“竹青荘”（通称アオタケ）のみんなが、清瀬灰二（ハイジ）の宣言のもと、本気で箱根駅伝を目指す物語。
中学生の頃にこの本に出会い、仲間との絆、仲間と協力することの大切さを学びました！

『風が強く吹いている』
(三浦しをん/著 新潮社)
新潮文庫

『図書館戦争』や『三匹のおっさん』などが有名な、有川浩さんの自衛隊三部作の一つです。
長文を読むのが苦手な人でも読みやすいので、おすすめです。



『空の中』
(有川浩/著 KADOKAWA)
角川文庫



—中学生になった頃、ぼくらはもう一人前で
自分でなんでもできると思った。—
突如現れた巨大ロボット、それに乗り込み敵と戦う少年少女たち。操縦者に選ばれた子どもたちの心理描写、ロボットに踏み潰される街や人々。
命の価値、生きる理由を考えさせられます。

『ぼくらの〜alternative〜』
(大樹連司/著、鬼頭莫宏/原作・イラスト 小学館) ガガガ文庫

中学生にすすめたい！この一冊 ③

読書コンシェルジュが、「すこし後輩」に当たる中学生の皆さんに、心に残る一冊を紹介します。

学校での生活に嫌気がさし、不登校になってしまった中学生・まいが、祖母の元での魔女修行により精神的に成長していく、心温まる物語です。生きる力を与えてくれる祖母の言葉や、登場人物の「死」の捉え方が印象的で、私は今もその言葉に支えられています。精神的な葛藤の中を生きる中学生の皆さんにこそ、読んでほしい一冊です。



『西の魔女が死んだ』
(梨木香歩／著 新潮社)
新潮文庫

心と身体に問題を抱え、学校に通えなくなった中学生のまいが、しばらくの間、「魔女」の素質がある祖母の家に預けられるところから物語は始まります。思春期真っただ中のまいは、自分の心の状態を客観視できず、不安定な状態でしたが、月日がたつにつれ、ゆっくりと成長していきます。人生の大切なことを伝えてくれる本です。

中学の時に会った本。中学生6人が駅伝大会のためにチームを組み、県大会出場を目指す青春小説です。6人それぞれの視点から描かれるこの物語は、駅伝を通してたくさんのことを教えてくれます。仲間との関係に悩み、やがて心をつないで、一つのことを成し遂げる素晴らしさを知る彼らの姿に、共感できるところも多いと思います。読むと力がわいてきて、自分も頑張ろうと思える作品です。



『あと少し、もう少し』 (瀬尾まいこ／著 新潮社)
新潮文庫

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』
(汐見夏衛／著 スターツ出版)
スターツ出版文庫

家や学校で反抗的な態度を取り、イライラと日々を送る主人公が、家出して目を覚ますと、そこは戦時中、70年前の日本でした。そんな主人公が、悩み、あがき、かなわぬ恋をし、精一杯生きていくところが見どころです。



『読み出したらとまらない雑学の本』 (竹内均／編 三笠書房)
知的生きかた文庫

身の回りの生活に潜む「知っていそうで、実は知らない」雑学が200ネタ！読み進めると、常識だと思っていたことにも多くの新たな発見があります。何といっても内容がおもしろく、読書好きはもちろん、読書が苦手な人でもあつという間に読めてしまう本です。



中学生にすすめたい！この一冊 ④

読書コンシェルジュが、「すこし後輩」に当たる中学生の皆さんに、心に残る一冊を紹介します。

私は小学生の頃に読みましたが、どんな年代の人にも読んでほしい本です。

どこの学校でも起こりそうなことから発展した、いじめや人間関係について描かれています。描写がかなり生々しいので、実際に目の前でこんなことが起こったら…と考えさせられました。



『さくらいろの季節』
(蒼沼洋人／著 ポプラ社)



『半沢直樹シリーズ』
〔『オレたちバブル入行組』 (池井戸潤／著 文藝春秋) 文春文庫〕

半沢直樹シリーズは、テレビドラマ化されて話題を呼んでいましたが、ぜひ本も読んでいただきたいです！
半沢といえば、最後の最後にスカッとする倍返し！！理不尽と闘ってきた半沢の、有無を言わせない言葉は、時には人の心を動かし、ビンタの一撃を食らうような勢いがあります。
人間関係に悩んだとき、迷いを捨てたいときにオススメです。

『ナルニア国物語 ライオンと魔女』
(C.S.ルイス／作、瀬田貞二／訳 岩波書店)
岩波少年文庫

魔法が存在するナルニア国で、四人のきょうだいが仲間と協力して様々な試練に立ち向かい、成長していく物語です。エドマンズの裏切り、アスランの死と、次はどうなってしまうか、予想のつかない展開がポイントです！



主人公・奈ノ花の感じていることや、他の登場人物の心境が繊細に描かれていて、自分の身の回りでも起こりそうだな…と思います。
最後に、心が温まること間違いなし！

『Another』上・下
(綾辻行人／著 KADOKAWA)
角川文庫



ミステリー好きには、絶対読んでほしい本！！
中学の時に初めて読んで、心に残りました。綾辻さんは表現が本当にリアルで、少しゾッとするけど、不思議な世界に引き込まれます

『また、同じ夢を見ていた』
(住野よる／著 双葉社)
双葉文庫

